

2025年4月1日入学式来賓あいさつ

学校法人大阪観光大学理事長の山本です。新たな人生に一步踏み出したみなさん、おめでとうございます。また新たな一步を踏み出す場として大阪観光大学を選んでいただいたことに感謝を申し上げます。本日は、入学生のご家族も、海外からの方もふくめてたくさん参加していただいております。ご家族のみなさんには、本日まで彼らを育て、その人生を支えてこられたご苦勞に敬意を表したいと思います。

いま大阪観光大学は、なにをめざしているかについて、観光学とはなにか、それを学ぶ現代的意義については学長が詳しくお伝えしました。

そもそも大学とは、これまでみなさんが学んできた「学校」とはなにが違うのでしょうか。大学とは、学問を学びたいという学生が集まり、ギルド、組合ですね。その学びに応えてくれる教師が参加する。その後教師もギルドをつくり、学生と教師の連合体として大学ができていくのです。いまから約1000年前のヨーロッパでのことです。つまり大学とは、もともと学生主体、学生中心の組織なのです。

一昨日春の甲子園野球大会が終わりましたが、ここでは自治野球（横浜青陵高校）、ノーサイン野球（沖縄エナジックススポーツ）という言葉が注目されました。

ここには本学硬式野球部への入部を予定している入学者もいますが、先日野球部の先輩が、入部予定者に「大学の野球部は高校と違い、学生の自主性によって成り立っている。その自主性をつらぬことが難しい」と説明していました。

本学野球部の学生も言うように、学生の自主性、これが大学の原点です。

そしていま大阪観光大学は、学生を軸に、教員も研究者教育者として主体的に、そして職員の主体的に参加しつくる組織として発展させようとしています。主体的になるということは、その活動、仕事、学びを「楽しく」感じることができ、それによって「幸せ」になれるということです。本学憲章が「楽しむ力」という理念を本学全体が目指すところに貫こうとしています。

理事会、そして理事長の職務は、学生や教職員がつくろうとする大学を応援することです。

いま日本の多くの大学が、18歳人口の急激な減少によって経営困難となっていますが、大阪観光大学は、日本の若者だけではなくて、広くアジアの若者に期待される大学となっています。そしてこれは、大学の未来を危惧する文部科学省にも、マスコミにも注目され評価されています。

最後に、本学は本年12月、短期大学設置から数えて40年、4年制大学となって25年を迎えます。さらに歴史をさかのぼれば100余年、市民が築きあげた公共財です。この公共財として大阪観光大学が、みなさんの未来の人生の希望を実現する役割を果たせるべく、理事会、理事長として職務を遂行することをお誓いしお祝いのことばといたします。

2025年4月1日

学校法人大阪観光大学理事長

山本 健慈